

アルツハイマー病

園芸認知症の進行抑制

土混ぜる作業 脳血流増加

アルツハイマー病が原因の認知症患者が、土を混ぜたり、鉢に土を入れる園芸作業をすると、脳の血流が増加し、病気の進行を抑える可能性のあることが、兵庫県立淡路景観園芸学校の豊田正博准教授(園芸療法学)の研究で確認された。特定の作業が同病患者の脳を活性化すると科学的に証明したのは初めて。

【高山梓】

兵庫の県立校
准教授が確認
リハビリに安定的効果

第24回日本老年精神
医学会で発表した。ア
ルツハイマー病は、脳
感情などをつかさどる
前頭連合野の血流が健

常者に比べて少ない。

豊田准教授は昨年9
月、姫路市内の特別養
護老人ホームの患者25
人(96〜79歳)につい
て▽2種類の土を手で
混ぜる▽鉢にスコップ
で土を入れる▽腕を単
純に動かす――などの

作業中、脳の血流量を
測定し、健常な高齢者
20人(87〜71歳)と比
較した。結果、患者の
血流量は土を混ぜる作
業で最も多くなり、同
じ作業をした健常者の
約1.7倍にもなった。

一方、腕を単純に動
かす場合は、ほとんど
増えなかった。目的が
明確で、難易度が高く
ないほど、感情が刺激
を受け、満足を感じる
とみられる。

健常者はいずれの作
業でも血流は増えた
が、作業の種類で増え
方に大きな差はなかつ
た。

豊田准教授は「興味
を持って継続的に園芸
に取り組めば、患者の
意欲の向上につなが
る」と分析している。

十一元三・京都大学
院教授は「園芸療法は、
年齢性別を問わずに取
り組むことができ、リ
ハビリとして、安定し
て効果を得られる可能
性がある」と評価して
いる。

は言 社 池 い 落 手 装 後 3 よ 団 り が 都